

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は岡山県で生まれ、高校卒業と同時に実家を離れて大学で作物生産について学び(遊び?)、関東の種苗会社に就職しました。そこで10年間、技術とはほぼ無縁の営業の仕事をしていましたが、自然豊かな北海道で生活したいとの思いが日に日に強くなり、とうとう妻子を道連れに移住してしまいました。その時からお世話になっているのが今の会社です。1997年(平成9年)に移住・転職してから、今年でちょうど20年になります。

北海道移住前に道内の求人情報を調べていた頃は、世の中に建設コンサルタント業なる業種があることすら知らない有り様で、もちろん“技術士”という資格の存在も知りませんでした。そんな技術士の二次試験には苦勞の末、3回目の挑戦で合格しました。2006年(平成18年)、入社10年目の年です。

技術士になってよく感じることは、この資格に対する世間一般の人の知名度が極めて低いことです。業界以外の人と名刺交換をした時、私の名刺を眺めながら「技術士?これ社内の資格なの?」と言われたことが何度もあります。あんなに苦勞して取得したのに、民間団体が認定する趣味の資格(〇〇インストラクターや△△ソムリエ)よりも知名度が低いのではないかと思うことさえあります。技術士とはどのような資格なのか、説明に苦勞しないよう、せめて誰でも聞いたことがあり仕事の内容がイメージできるような技術屋の資格、例えば建築士や測量士並の知名度になって欲しいものです。

自分には技術士の知名度を飛躍的に向上させるだけの力量はありませんが、ひとたび仕事上で問題を起せば一気に技術士の信用を失墜させ、資格のイメージを低下させることに繋がります。そうなると大問題ですので、せめて他の技術士の方にご迷惑をお掛けしないよう、何事にも日々そこそこまじめに取り組んでいる次第です。今後もよろしくお願いいたします。

佐藤 寛(さとう ひろし)

● 農業部門(農村環境)

勤務先

北王コンサルタント株式会社



→次号は、柳川健一さん(建設部門)

私は、道南で生まれ、小学校6年から札幌で育ち、大学4年間を北見で暮らし、1981年(昭和56年)に札幌の総合建設コンサルタントに就職し、35年間勤務しています。

入社後前半18年間は、大規模住宅団地開発、工業団地開発、公園、運動施設、駅前広場、墓苑などの面整備事業関係の計画・設計を担当し、後半17年間は、環境調査、環境影響評価などの環境アセスメント関連事業に携わっています。

技術士資格取得は、計画・設計分野から環境分野へと担当部署が変わり、新たな環境からのスタートのころでした。一見違う分野と思われがちですが、予測・評価、環境保全措置の検討など環境分野の課題解決に向けては、入社当初から携わった多種多様の計画・設計分野の経験が役に立っています。

技術士資格取得後は、主に環境影響評価業務関連の仕事に従事することが多く、中でも道路事業の環境影響評価が印象的な業務です。環境影響評価法が施行され道路事業として北海道で初めての方法書・準備書・評価書と各手続きを行う事業であったため、各種手続きをひとつひとつ作り上げていく作業は大変でしたが、多くのことを学んだ仕事です。また、環境アセスメントは、評価書の公告縦覧で終わりではなく、その後の環境保全措置の検証など事業完了まで建設環境の技術者として関わり続けたいプロジェクトと思っています。

技術士は資格取得がゴールではなくスタートで、技術者として社会にどのように貢献できるかが重要であると考えています。最近小学校の総合学習の講師など微力ですが社会貢献に努めています。

木村 明彦(きむら あきひこ)

● 建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社ドーコン
環境事業本部 環境保全部



→次号は、川尻綾子さん(森林部門)